

同定のカギ

- ・角があるハート型の葉でつるになる
- ・オレンジ色の花

**形態・特徴**

熱帯アメリカ原産の帰化植物。つる性で3-4mに達する。茎葉ともに無毛。茎は分岐が多く、短い葉柄に先端の尖った心臓型で1~2の角がある葉身がつく。

花は直径約1.5~2cm、五角形のロート状、朱赤色で中心部が黄色、一カ所に数個つける。

1個の果実に4個の種子を含む。種子は雑草としてはやや大きく(約3×2mm)、黒~灰褐色で球を縦に四つに割ったような形でやや丸みを帯びる。種皮は硬く(硬実)、不透水層で吸水が阻害されることで休眠している。休眠種子は湛水条件や低温でも生存している。1株あたり数千個の種子を作る。

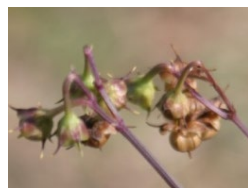
発生生態

子葉は丸みを帯び、切れ込みは浅い。出芽は、4月から10月ぐらいまで長期にわたる。4月に発芽したものは6月頃に開花し、5~7月に発芽したものは8月頃に開花する。開花は短日で促進され、4月あるいは8月中旬以降に発芽したものは、植物体が小さくても開花・結実する。

**雑草害**

大豆畑での雑草害としては、つるでからみつくため、収穫作業の阻害、大豆汚粒の原因、大豆の生育阻害(生育初期~中期の競合と生育後期に大豆を押し倒す)などがあり、まん延すると大幅に減収する。

飼料用トウモロコシ畑では1m²あたり5-80本で20-40%の減収となる。

**防除のポイント**

ほ場侵入前にほ場周辺に定着して繁茂していることが多いので、見つけたら開花・結実前に防除して種子生産を防止し、大豆畑への侵入および地域全体への蔓延を防ぐ必要がある。

大豆の群落が完成して光が遮断されると生育が抑制されるので、大豆群落完成までにつるにならないように、中耕や除草剤を組み合わせる回数防除を行う。



写真: 上から、「生育中のマルバルコウ」、「実生」、「花」、「果実」、「ダイズ畑を覆っている状況」。

マルバルコウ

Ver.2.

お問い合わせ
農研機構
植物防疫研究部門
雑草防除研究領域
029-838-8421 (広報)



Ipomoea coccinea

まん延を防止するために

マルバルコウ



機械的防除

中耕培土を繰り返して埋没させるとともにつる化を防ぐ。発生が少ない段階では手取りも有効。

侵入初期の防除が重要

いったん種子がほ場内に落ちると埋土種子を減少させることは困難なので、侵入初期に種子を作らせないタイミングで手取りも含めて徹底防除する。



耕種的防除

大豆播種前に発生しているものを耕起によって埋没させる際は丁寧に行う。大豆群落を早く完成させ、光を遮断して生育を抑制する。

ほ場周辺の管理で地域全体へのまん延を防ぐ

畦畔などのほ場周辺ではまん延防止のため種子を作らせないタイミングで、草刈りや非選択性除草剤などで防除する。種子の後熟を防ぐために刈り取り株は放置しない。



化学的防除

全面散布は大豆2葉期以降、マルバルコウが小さいうち(3~4葉期まで)に実施。非選択性茎葉処理剤の畦間処理などはつる化すると効果が低下するとともに作業が困難になるので、その前に実施。

雑草害を防ぐためにはつる化を防止する方向での対策を

大豆の群落完成までつるにならないように機械的防除と化学的防除を組み合わせる。水稻栽培中は出芽と種子生産が阻害されるが、埋土種子は死滅しないため、水稻栽培以降も十分に注意して防除を行う。

除草剤情報

大豆播種前、大豆出芽前、畦間処理ではこの他にも使用できる除草剤があります。※除草剤の使用にあたっては、ラベルをよく読み、よく理解した上で使用方法を遵守してください。

除草剤	薬量	処理方法・時期
ベンタゾン液剤* (大豆バサグラン液剤)	100-150mL/10a	全面散布、大豆の2葉期～開花前、収穫45日前まで (マルバルコウ3葉期位までが効果的)
フルチアセットメチル乳剤* (アタックショット乳剤)	30-50mL/10a	全面散布、大豆の2葉期～開花前、収穫45日前まで (マルバルコウ4葉期位までが効果的)
グルホシネート液剤 (バスタ液剤)	300-500mL/10a	大豆播種前、大豆播種後出芽前
	300-500mL/10a	畦間・株間処理、収穫28日前まで (大豆にからみかかないうちが効果的)

*ベンタゾン液剤やフルチアセットメチル乳剤の効果は帰化アサガオの種によって異なり、種内でも変異があるので注意が必要です。また、発生期間が長いので、1つの手段だけでなく、体系で防除する必要があります。

マルバルコウ > ホシアサガオ マルバアサガオ
(枯れやすい) > マメアサガオ マルバアメリカアサガオ・アメリカアサガオ
(枯れにくい)

※本パンフレットは、農林水産省委託プロジェクト研究「気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発」および「収益力向上のための研究開発」の成果に基づいて作成しました。

2019.11
作成版